

豊能地区教職員人事協議会では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。これまで 10 年経験者研修として実施していた 15 回の研修を、めざす教職員像を見据え、昨年度より中堅教諭等資質向上研修として 5 年経験者研修（4 回）と 10 年経験者研修（11 回）に分けて実施しています。今年度、5 年経験者研修は、小学校教諭 74 名、中学校教諭 21 名、合わせて 95 名の先生方が受講されます。

この通信は、豊能地区で行う共通研修の振り返りをもとに発信します。受講者の皆さんの視野を広げ、研修から学んだことをより深めることにつながればと願い、作成しています。

### 開講にあたって テーマ：キャリア教育についての理解 ～これからの学校教育で求められるもの～

開講にあたり、(株) キャリアリンクの教育コーディネーターの長友さんをお迎えし、演習も交えながらご講義していただきました。

まず、これまで自分自身が経験してきた道筋を振り返るワークから始まりました。そして、キャリア教育の定義が社会の流れに対応し変化していること、また、学習指導要領の中でキャリア教育が細かく位置付けられていることを学びました。さらに、2 つの授業シーンを比較しながら、教科学習をキャリア教育の視点で見直すとはどういうことかワークを通して具体的に考えました。キャリア教育の視点を意識し、教育活動に取り組んでいく重要性を段階的に学びました。

自分自身のキャリア(人生)を振り返ることは正直そんなにありませんでした。今まで自分が歩んできたキャリアを広い視野で見た時に、良い出来事も悪い出来事も今の自分自身を作っていることを再認識しました。

「キャリア教育」という授業はないけれども、どの教科にも、またそれ以外の学校生活にも関係が深いということが分かりました。キャリア教育の定義にあったように「知識・技能を身に付ける」ことだけが目的ではなく、習ったことをどう活用するか、自分で考えるところまでが大切だと感じました。

清掃活動一つをとっても未来につながるいろいろな力を育むことができると知り、学校における全ての活動をもう一度見直してみたいと思いました。キャリア教育の視点を持つことで、授業の中にもさまざまなしかけを作ることができるので、まずは、キャリア教育について私自身がもっと深く学んでいきたいと思います。

キャリア教育についていろいろな視点から話を聞いたり、グループワークをしたりしてじっくり考えることができました。特に、「これからの社会を生きる子どもたちに必要な力や態度」についてのトップ3を話し合いで決めたことで、今、子どもたちに必要な力を考えることができました。他の先生方が挙げたものの中には、自分が思いつかなかったものもたくさんあり、「なるほど」と思いました。

未来の子どもに必要とされる力について、改めて考えることができました。65%の子どもが、今存在しない職につくということを考えると、今のキャリア教育もいずれ古いものになるかもしれません。常に社会がどう変動し、何を求められているのか考え続ける必要があると思いました。

キャリア教育というものが教科を横断的に行われるものだというイメージはありましたが、各教科の学習指導要領の中にも細かく位置付けられているものだというのを改めて知りました。職業教育という枠組みの中だけでなく、普段の学習から将来の子どもたちにつけたい力を考えながらキャリア教育を進めていくという視点を校内にも広げられたらと思います。

上記の感想にもありますが「今日、学んだことを校内にも広げていきたい。」という感想がたくさんありました。学んだことを研修の中だけに留めず、実践し、発信していく。それもミドルリーダーとしての大切な役割の一つです。そして、それが次の学びへとつながっていきます。最終回には、6～10 年のキャリアプランについて考えていきます。そのことも視野に入れ、それぞれの研修が実り多きものになるよう進めていきます。

## 「授業研究シート」を Web アップしました

豊能地区公立学校 5 年経験者研修「授業研究シート」を豊能地区教職員人事協議会の Web サイトにアップしています。第 4 回の研修の際に 6 部持参し、実践報告・交流をします。詳しくは、豊能地区公立学校 5 年経験者研修の手引 P. 5 をご覧ください。